

本校のスクール・ミッション（社会的役割）について

北海道新十津川農業高等学校長 加藤 和 則

郷土を愛するとともに、地域産業の持続的な成長を担う職業人に求められる資質・能力を身に付けた生徒の育成

1 スクール・ミッションの構成要素と解釈

このミッションは、大きく分けて「マインドセット（心構え）」と「スキル（能力）」の2つの軸で構成されている。

(1) 郷土を愛する（地域愛・アイデンティティ）

ア 単に知識を得るだけでなく、自分が育った地域や活動する場所に誇りを持つことを重視している。

イ 地域の歴史、文化、そして課題を「自分事」として捉える姿勢を育む。

(2) 地域産業の持続的な成長を担う（社会貢献・持続可能性）

ア 一過性の労働力ではなく、将来にわたって地域の産業を支え、アップデートしていくリーダーシップや革新性が求められる。

イ 「サステナビリティ」の視点を持ち、変化する経済状況に対応できる柔軟性を意味する。

(3) 職業人に求められる資質・能力（専門性・人間力）

ア 具体的な専門技術（ハードスキル）はもちろん、コミュニケーション能力や倫理観、課題解決能力（ソフトスキル）を含めた総合的な「仕事のプロ」を育成する。

2 教育活動への展開

このミッションを実際の学校生活に落とし込む場合、以下のような取り組みが考えられる。

(1) 地域連携プロジェクト

地元の企業と協力して商品開発や課題解決を行う。

(2) フィールドワーク

地域の産業遺産や最先端の工場を見学し、現状を肌で感じる。

(3) キャリア教育

実際に地域で活躍する社会人から学び、将来の働く姿を具体化する。

3 このミッションが目指す具体的な生徒像

このミッションに基づくと、卒業時には以下のような姿が期待される。

(1) 地域密着型プロフェッショナル

自分のスキルがどう地域に役立つかを考え、行動できる。

(2) 主体的な学び手

産業構造の変化に合わせて、自ら新しい技術や知識をアップデートし続けられる。

(3) 次世代の担い手

地域の伝統を守りつつ、新しい価値を創造して地域の活力を生み出す。